

タマリハ 鈴木先生に聞く!

タマリハ新聞

第4号
発行所
多摩リハビリ
テーション学院

日本語のすばらしさを伝えたい

日本語教師の道も考えていた



最初は視能訓練士に興味がありました。いつも一緒に遊んでもらっていた親戚がペーチェット病にかかりある日突然目が見えなくなったことがありました。母と一緒にその親戚のお見舞いに行ったり、二俣川のライトセンター(リハビリ施設)に同行しました。その後、高3で進路を決める際に、どうしても大学に行きたくない理由があって、専門学校を探していました。書店でガイドブックなどを見ていた時に、はじめて言語聴覚士(当時・言語療法士)を知りました。当時はいつ国家資格になるか分からない状況でしたが、ことば、特に日本語を使って仕事をしたいと思ひ、目指すことにしました。多くの人に言葉の力や、日本語のすばらしさを伝えていきたいと思っていました。

もともと中学生の頃にはバンドブームで、ライブ通いに熱中していました。大切な試験の2日前にライブに行ってしまったこともありましたが、その頃大好きだったバンドの歌詞が「日本語をとっても大切にしている」と感じたのです。その時から日本語教師の道も考えるほど、ことばや日本語そのものに惹かれていきました。両親は非常に自由で、進路や自分のやりたいことに反対されることがありませんでした。成人式には母から「どうせ着物着ないでしょ?」と言われ、実際姉の着物があるものの着るつもりはありませんでした。17歳の頃からショートヘアのため、女性用タキシードを選びました。非常に目立ちましたが、友人や知人の反応はごく自然でした(笑)。とにかく自分がやりたいように自由にさせてもらったことを、今でも感謝しています。



好きな映画は私立探偵濱マイク。主演の永瀬正敏さんが好き。「好きなことというより日常なのですが、愛姪(現在、大学生)と過ごすのが何より幸せな時間です。」と鈴木先生。姪御さんとは一緒にライブに行くことも。洋服を買いに行くのと、姪御さんは決まって青い服を選んでしまうとか。鈴木先生は決まって黄色を選ぶそうです。「いつも同じような服ばかり買っていると母親(鈴木先生の姉)に怪訝そうにされてしまうので、カモフラージュ的に母親の服も買って帰ったりするんですよ。」と楽しそうにお話してくれました。目に入れても痛くないのでしょうかね♪

「姪っ子LOVE」編集後記

普段からちょっと早口で、非常に明快にお話される鈴木真生先生。誰からも頼りにされるしっかり者です。中高生の時にライブ(野音や日比谷)をひたすら見に行ったというお話は、編集者である私も経験があり、思わず共感してしまいました!また姪御さんについては「本当にめっちゃかわいくて仕方ない」という印象が強かったです。一緒にライブや



鈴木先生ってこんな人

尊敬する先生との出会い

教員になる前、臨床で患者様と接するにあたり、表現力について悩んだこともありましたが、恐らく他のSTさんと同様かと思いますが、同じ内容を伝えるにしても、「どう喋るか」「どのように伝えるか」について非常に苦労しました。その後、現在も学院に講師として来られている芦野先生との出会いがあり、その先生のきれいな話し方、ことばの明瞭性に衝撃を受けました。今でもとても尊敬しています。

全国どこにいても言語聴覚士のサービスを

今後の目標としては、若い世代を育てることです。卒前教育のみならず、卒業教育にも力を入れていきたいと考えています。知識はとも大切ですが、人間は必要に迫られないと他力本願になりがちで、自ら学ぶことが困難です。だからこそ生涯学習を推し進めていきたいのです。また、学生にも卒業生にも「そうぞう力(創造・想像どちらも)」を大切にするように伝えていきます。そして実現が難しいことかもしれませんが、全国どこにいても必要な時に、言語聴覚士のサービスが受けられるようにしたいと考えています。まだまだ有資格者が少なく、マンパワーが不足していますので、多くの方に言語聴覚士を知って欲しいです。

買い物に行かれるエピソードなど、微笑ましい光景が目につかびました。また「若い世代を育てたい」という今後の思いについても目を輝かせて話しておられました。とても素晴らしい資格なのに、まだまだ有資格者が少ない言語聴覚士。タマリハ体験会で鈴木先生から、その魅力についてお話を聞いてみませんか?